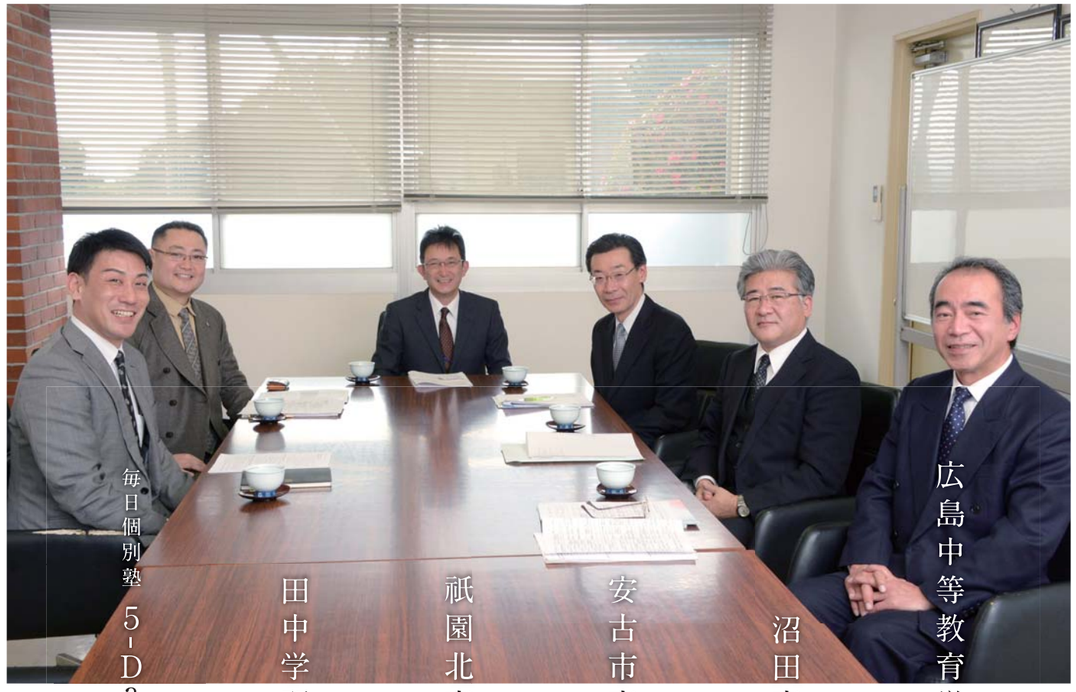

ご近所のがんばる学校や子どもたちを追っかけ！

学校に行こう！ スペシャル座談会

ご近所の校長先生4人と人気塾塾長2人が 安佐南・安佐北の教育のこれからについて熱く語る！

年が明け、今や受験シーズンまっただ中。ご近所さんの教育・受験への関心がぐっと高くなる時期です。
そこで、「まるごと。」では「安佐南・安佐北の教育のこれから」をテーマに特別ミーティングを開催。
区内4校の校長先生と2つの人気学習塾の塾長という“教育のプロ”たちに集まってもらい、子どもの学習に対するモチベーションの上げ方や
大学入試制度の変更点など気になる教育、学習や受験のあれこれについて熱く語ってもらいました！

（編集・取材／山本速、周藤圭美（以下本誌）　文／清水浩司　撮影／橋本真宏）

多くの保護者が、「どうすれば子どもが熱心に勉強に取り組んでくれるのか」という悩みを抱えています。そこで、生徒の学習に対するモチベーションを高めるために貴校・貴塾が行っている独自の取り組みや工夫、そして保護者へのアドバイスを教えて頂けますか？

広島県立安古市高等学校　奥田校長（以下、奥田）／まず私どもの学校では「どうして勉強するのか？」という部分の理解に力を注いでいます。1・2年生ではディベート、3年生ではパネルディスカッションを行うなど、自分が将来どう生きていくのか考えてもらうようにしています。

広島市立広島中等教育学校　猪原校長（以下、猪原）／確かに、今自分たちが行っている勉強が将来にどうつながるのかを考えてもらうことは大切ですよね。本校独自の取り組みとしては、中学生の段階から行う職業研究や大学研究でしょうか。それもただインターンシップを体験するだけでなく、最終的にはパワーポイントを用いた発表まで行い、理解を深めます。

田中学習会　田中弘樹塾長（以下、田中弘）／私はまず理念が大事だと思っています。教室内で「何のために勉強するのか？」という疑問を「何のために生まれてきたのか？」というところまで突き詰めて話すようにしています。同時に、講師たちにも〝生徒には頭だけではなく、心でわかってもらう〟という基本的な部分を伝えるよう心掛けています。そうすると子どもたちは「最終的には人のために勉強する」ということを理解してくれる。多少回り道になるかもしれないけど、それが学びに対する土台になると思うんです。

毎日個別塾5-Days　田中良典塾長（以下、田中良）／素晴らしいお考えですね。私は、「よくできたね」ときちんと褒めてあげることで、学習へのモチベーションは確実に高まると考えています。私たちが採用しているのはスモールステップという方法です。たとえ小さくても、まずは絶対到達できる目標を設定して、それを達成してもらうことが大事です。保護者の皆様も、どんな小さなことでもいいので、お子様が目標を達成したら褒めてあげてくださいね。

田中弘／褒めることが大事というのは、その通りですよね。生徒は褒められることで自主学習への意欲を高め、自立への力をつけていきます。私たちは自主学習ノートを作っており、100点を取れたら表彰してあげるなど積極的に生徒を褒める機会を作るようにしています。さらには、たとえ100点がとれなくても、「自らが学習する」という大切なことを理解してくれた生徒も褒めてあげたいです。一度100点で返ってきたが本人が採点ミスに気づき99点に直してもらった、という生徒がいたのですが、その子も直接表彰しました。とても嬉しそうでしたね。

田中良／それで言うと、特に小学校のときに成績の悪かった生徒は「もう自分はダメだ」と思いがちなんですよ。なので「それは誤解だよ。まだこれから挽回していけるよ」ということをしっかり伝えて、立ち直らせていくことで、将来の選択肢は豊かになっていくはずです。

広島市立沼田高等学校　藤岡校長（以下、藤岡）／私は、子どもの将来や職業について幼少期から家庭で話し合うことが大切だと考えます。子どもたちは「お父さん、僕はこういう職業に就きたい。どうしたらこの仕事に就けるの？」「じゃあこれをやってみようか」という会話の中で夢を広げ、学習へのモチベーションを高めていくものです。だけどお忙しいご両親も多く、「わからん」「それはあとで」「先生に聞きなさい」となってしまう。それだと子どもの意欲はガクンと落ちますよ。子どもの未来のキャリアについてもっと親子で語り合ってほしいですね。

田中良／良好な親子関係こそ適切な教育環境を作るところはあると思います。なので私たちは勉強させるなどのストレスのかかる作業は塾に任せてもらって、家庭ではとにかくお子様を褒めてもらうようお願いしています。

藤岡／今の子どもたちは家庭学習の習慣がついていない子が多いですよね。まずはいい習慣をつけることからはじめたいと思っています。学校の取り組みとしては、2014年から1日の生活の計画と記録を「マイスケジュール」というノートに毎日書いて改善に役立てるようにしていますよ。

奥田／たぶん「勉強しろ」と言われただけじゃ、どうしていいのかわからないのでしょう。具体的に「今日はこれくらいやりなさい」と伝えることで大きな学びにつながり

田中学習会
田中 弘樹塾長（52）

「何のために勉強するのか？」という疑問を突き詰めることで学習の土台が作られる

学習力を向上させる中で、子どもたちの意思を鍛え、精神力を培い、心・魂の成長の場となることを目指す。試験対策では、試験当日の朝学・昼学などに取り組み、最後の1点にこだわりぬく。

広島市立沼田高等学校
藤岡 哲校長（57）

生徒一人一人の学力を最大限に伸ばすための少人数授業・習熟度別授業・進路別授業

「知・徳・体」を鍛え、日々精進する生徒を育てるとともに、国際平和文化都市としての広島らしい教育を発信する。進路志望別・習熟度別に少人数授業を行い、生徒一人一人の学力を最大限に伸ばし、進路実現を目指す。

Profile

田中学習会

■安佐南区、安佐北区など

安佐南区・安佐北区で11教室・2083名の生徒を抱える個別・集団の学習塾。全教室で「公立高校入試に強い」という伝統が受け継がれている。数万人に及ぶ過去のデータや豊富な情報力があり、公立高校入試に向けた的確な学習指導・進路指導を提供する。

広島市立沼田高等学校

■安佐南区伴東

昭和60年に開校した全日制普通科高校。トップアスリートの育成を目指す体育コースがある。2年次から意欲と学力の高い生徒による2つのフロンティアクラス（文・理30名程度）を編成。早期の進路研究・入試対応型の授業など、より効率的な学習環境で国公立大学への進学を目指す。

広島県立安古市高等学校
奥田 孝憲校長(60)

メリハリをつけた
学生生活を送ることで
勉強へのモチベーションも
上がるはず

校訓「仰高」の精神のもと、次代を担うトップリーダーに求められる幅広い資質や能力を養う。「仰高ゼミ」という授業では、教科学習を補完する、これからの社会で生きる基盤となる真の学力育成を図っている。

ます。数年前から学年ごとに学習時間の目安を作ったのですが、一気に点数が上がって効果は一目瞭然でした。

広島県立祇園北高等学校　濱岡校長(以下、濱岡)／面談の時間も大切ですね。生徒たちが家庭でどんな生活をしているか、どれくらい勉強しているかを書いた宅習記録を年5回ほど提出してもらい、それを元にどんな勉強をすればいいか面談で教員が伝えるようにしています。

奥田／勉強や部活などメリハリをつけた学生生活を送ることで、勉強に対するモチベーションも上がると考えています。本校は文化祭もかなり盛り上がりますが、終わった瞬間に勉強に切り替えさせています。部活も19時を完全下校とし、主体的な学習時間を確保しています。

猪原／年齢を超えた生徒同士の交流も学習のモチベーションを上げる上で、非常に有意義であると感じています。私たちの場合は、中高一貫校というメリットを生かして中学生と高校生の交流を積極的に行うようにしています。たとえば校内の掲示板に高校の生徒の進学先を貼り出します。それを見た中学校の生徒が「あ、クラブの先輩が合格した大学だ」と目を留めて「〇〇大学ってどんな大学ですか?」と質問してくる。それが結果的にこの子のモチベーションにつながるわけで、生徒同士の交流は大事だと思います。

濱岡／国を超えての異文化交流の機会があるというのも、生徒たちの学習意欲を高めているようです。当校ではカナダのバンクーバー郊外にある姉妹校との交流活動を推進しています。希望者を対象に姉妹校との交流を含め、カナダ語学の研修を実施したり、外国人教員を加配していただいたりしています。研修から帰ってきた生徒はやる気に満ち溢れていますね。

貴重なご意見ありがとうございます。続きまして、安佐南区・安佐北区の学校・学習塾として、地域と連携した取り組みはどんなことを行っていらっしゃいますか?

猪原／わが校は市外からの通学者も少なくないのですが、だからこそ地域とのつながりを大切にしています。具体的には毎年生徒会を中心に根の谷川の清掃を行い、1年生は地元・可部の事業所を中心にジョブ・シャドウ(職場見学)を実施しています。

田中良／昨年8月の土砂災害時には、梅林小学校が再開されるまで教室を解放して無料授業を行いました。その際は100名以上の小学生に当塾の授業を受講いただきました。

濱岡／当校のグラウンドでも土砂災害からの復興支援を目的に、昨年11月、安佐南区少年サッカー親善大会を開催しました。また「福島ひまわり里親プロジェクト」のボランティア活動を通して、地元の小・中・大学と連携しています。

藤岡／地域の学校との連携で言うと、私たちも平成14年、沼田地区にある小・中・高・大の8校が連携して「十六の会(※小学校から大学生まで16年間子どもを見ていこうという会)」というグループを結成しました。十六の会では美術展を開催したり、大塚・伴・伴東・伴南といった地域の小学校に生徒・教師が赴き陸上・水泳の指導を行います。また、地元小・中学校と合同でクリスマスチャリティコンサートを行っています。

田中弘／当塾の一部の教室では講師自ら地元の中学校の合唱コンクールや運動会(体育祭)、授業参観などに精力的に足を運び、塾では見られない生徒の表情を観察するよう心掛けています。それによって塾内の親近感はいっそう増したように思います。快く受け入れてくださる学校の先生方には感謝しています。

奥田／学校行事を行う際は保護者を対象に公開していますが、特に毎年11月は「学校へ行こう月間」と名付けて行事を集中させ、多くの方々に来校いただけるよう配慮しています。

安佐南・安佐北の子どもたちの「ここが素晴らしい!」という点、一方、「ここはまだまだ改善できる!」という点を教えてください。

田中弘／部活動をしている生徒がほとんどの中、しっかり勉強との両立ができています。さらには疲れた中でも嬉しそうに通塾してくれるところに、この地域の子どもたちは素晴らしいと感じますね。直した方がいいところは…特にありません(笑)みんなよくがんばっています。

田中良／個人的には非常に素朴で素直な子が多いという印象です。ただ、両親共働きのご家族が多く、みなさん忙しくて子どもの面倒まで手が回らない分、ゲームやスマホで代替されているところが多いようです。それが勉強時間を減少させ、学力低下の一因になっているところはありますね。

猪原／素直でがんばる子が多いというのは同感です。実際土砂災害の時は、本校の生徒をはじめ多くの中高生がボランティア活動に従事してくれました。一方、自分に自信を持っていない子が多いように思います。何事にも臆せず、積極的な行動ができるようになると、人間的にもっと成長できるでしょうね。

濱岡／そう、安佐南・安佐北の子どもたちは他人に対する思いやりがある子が多いですよね。地域や社会に貢献したいという意欲があって素晴らしいです。消極的にならず難しいことにどんどんチャレンジしてほしいですね。

さて、2020年を目途に大学入試制度が変更になるようです。(※平成27年1月時点では不確定)大学入試センター試験から高校在学中に複数回実施される「達成度テスト(仮)」への移行も検討されていますが、貴校・貴塾の新制度への取り組み方や対策を教えてください。

藤岡／制度変更に関しては現在当校勤務の教職員に概要を説明したところで、今後担任から生徒に内容をわかりやすく伝えていくつもりです。特に注目したいのは外部英語資格を活用する点で、そこへの対策は必要だと感じています。

田中良／TOEFL等のスコアが英語能力として認定されることから、当塾も日常的に英語に触れられる環境作りに力を入れていきます。同時に、今後は物事を論理的に考え、話すことのできるコミュニケーション能力を鍛えるカリキュラムも整備していくつもりです。

濱岡／これまで大学入試では知識の多寡が重視されてきましたが、これから必要となるのは課題発見力や課題解決力。さらにグローバルマインドを養成するための「異文化間協働活動」にも取り組んでいきたいと考えています。

田中弘／現在、大学入試の主流は推薦入試に移っています。推薦を考えておられる方は普段の成績が重要になるので、学校での定期テストや提出物を大切にすることをお勧めします。また、大学入学の先のキャリア構築について保護者とお子様でしっかり話し合い、仕事の意味や将来のビジョンなどを明確にしておくことも必要だと思います。

猪原／基礎学力が大事なのは当然ですが、それに加えて本校ではゼミ形式の探究活動などで6年間かけてじっくり学力を育てていこうと考えています。

最後に、4校の校長先生にお聞きします。ズバリ貴校に合格するための秘訣を教えてください!

奥田／小論文では身近な話題に関する資料や図表を読み解き、その内容を論理的に考察し、判断したことを表現する力を問うています。問いに的確に答える練習や、自分の考えを論理的にまとめる練習が必要ですね。

濱岡／祇園北高校で何をやってみたいか、それをしっかりイメージできているかどうかが重要になります。是非チャレンジしてみてください。

藤岡／まずは基礎・基本を習得した上で、高校入試過去問などで問題を解くことに慣れておいてください。

猪原／本校の入試は適性検査と面接です。適性検査は文章で答えたり答えがひとつに決まらなかったり、一見難しそうに見えますが基礎学力があれば十分解ける問題ばかりです。まずは小学校生活や家族団らんを大切にしながら、過去問を使ってゆっくりとトレーニングしてくださいね。

広島市立広島中等教育学校
猪原 龍之校長(57)

中高一貫校という
メリットを生かして
生徒同士の交流を
積極的に行っています

広島県で唯一の6年間完全一貫の中等教育学校。中高の垣根をなくし、効率化したカリキュラム編成など、特色を活かした教育活動を推進することで、広島の教育のレベルアップを目指す。

毎日個別塾 5-Days
田中 良典塾長(38)

良好な親子関係が
適切な教育環境を作る
大事なのは
とにかく褒めること!

安佐南区・安佐北区を中心に「毎日個別塾5-Days」、「民間学童保育LOVE-KIDS」を展開する。自ら考え、目標・目的に向けて行動し、継続できる人間を育むことを基本姿勢とする。

Profile

広島県立祇園北高等学校
■安佐南区祇園

昭和58年に開校し、これまでに1万人以上の生徒が卒業。広島県のチャレンジハイスクールにも指定され、進学校としても名高い。平成15年には普通科の中に、普通科理数コースを設置。理系への興味を高めるため、広島大学などの教授を招いての授業など独自のカリキュラムを組む。

広島県立安古市高等学校
■安佐南区毘沙門台

昭和50年に開校。広島県のトップリーダーハイスクールに指定されるなど、県内屈指の進学校。陸上部・バドミントン部がインターハイ、山岳部も全国大会への出場実績がある。また文科系も放送部がNHK杯、吹奏楽部が中国大会に出場するなど、部活動も活発だ。

広島市立広島中等教育学校
■安佐北区三入東

平成26年4月より、広島初**の6年間一貫**スタイルの中等教育学校に**生まれ変わ**った。120人の定員に対し、**昨年は市内外**から464人が受験した。「**グローバルな視**野をもち、さまざまな分野で、人々の幸福に**リーダー**として貢献できる人物の育成」を目指す。

毎日個別塾 5-Days
■安佐南区、安佐北区など

地域密着の個別指導塾として祇園、口田、伴南など安佐南区・安佐北区に13校を展開。子どもの「ひとりで勉強できる」を実現するために、個別指導でありながら週3〜5回の料金一定価格。学習習慣の付きやすいコースや苦手科目に絞った指導をするマンツーマンコースなどを設置している。